

▼ 津波で流されたケアホーム・イチゴハウス跡地



らもとてもおおいと好評でした。そのハウスの側に、地域の要望からケアホームを増やそうと、昨年末から二棟目の

「ケアホームめぐみ中島」設立に向けて動き出していました。

また、昨年からは、障害者の就労所としてイチゴハウスを経営してました。ハウスは障害者も健常者も多くの方が参加して栽培し、地域のコミュニティのひとつとなっていたほか、大きい甘い実がなる為、収穫時期には地域の

「ケアホームめぐみ中島」設立に向けて動き出していました。

「ケアホームめぐみ中島」設立に向けて動き出していました。

「ケアホームめぐみ中島」設立に向けて動き出していました。

大津波に飲み込まれた ケアホームとイチゴハウス

NPO 法人泉里会

大津波に飲み込まれた ケアホームとイチゴハウス

震災前の三月初めに賃貸で借りた建物の改修工事が終わり、気仙沼保健福祉事務所に事業所指定を受けオープンする予定でしたが、三月十一日の震災で建物はすべて津波に流されました。

また、地域の人たちが親しまれていたイチゴハウス五棟も津波にのまれてあとかたも無くなってしまうました。

幸い、前から運営していた「ケアホームめぐみ」は津波の被害もなかった為、震災当初は職員や利用者、地域の住民など一時は約四十人が避難してきました。

しかし、「津波で流された地域では、いつ事業を再開できるかはわからないが、具体的に決まっていけないけど、障害を持つ方々が再開を待っているのを見ると、やっぱり建物の被害が大きかったから辞めよう、という気持ちにはならないですね。むしろこの仕事には終わりはないので、必ず立ち上がって再開します。」と理事長の森谷隆三さんは話しています。

「大津波に飲み込まれたケアホームとイチゴハウス」



▲ 理事長の森谷隆三さん

新たなニーズから再開へ

まず、地域に高いニーズがある障がい児の日中一時預かり事業は夏休みに利用者が大きく増える為、プレハブを建築し、八月のオープンに向け動き出しています。

NPO 法人 泉里会
 〒九八八-〇三三一
 宮城県気仙沼市本吉町中島一四一六
 TEL: 〇二二六-一三二二六



▲ ケアホームめぐみの管理責任者菅原満子さん

今回の被害額は、建物のリフォーム代やイチゴハウスなど一三〇〇万円近くになります。この状況で新たに事業を始めるのはとても大変なことですが、再開するには、どの地域が住めてどの地域が住めなくなるのか、という市の方針が決まらないと難しい状況です。

菅原さんは、「少しずつですが、前を向いて歩き始めているのは、利用者や職員、また多くのボランティアや支援者がいたからです」と人のつながりに感謝しています。